

【提出期限：2023年6月30日】

提出日：2023年5月23日

提出者：中東・イスラーム研究センター長・馬場多聞

## 2022年度 研究センター事業報告書

研究センター名	中東・イスラーム研究センター
---------	----------------

### I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。

#### ■当センターの設置とその目的

2019年10月1日に設置された「中東・イスラーム研究センター（Center for Middle Eastern and Islamic Studies、CMEIS〔シーメイス〕）」は、立命館大学の総合私立大学としての強みを最大限に活かし、多様な学問的背景を持ったスタッフの力を結集することで、①学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進していくこと、そして、②最先端の研究の追求を通して、中東・イスラームに関する総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成に取り組むことを目的とし、これまで活動を続けてきた。現状、(1)政治・国際関係、(2)文化・ジェンダー、(3)歴史・広域ネットワーク、(4)社会・経済システムの4つのユニット（研究領域）を組織し、個別の研究の推進に取り組んでいる。

#### ■2022年度の活動

①につき、昨年度より継続する新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による研究・調査活動の制約ゆえに、研究成果の出版や研究発表、研究会などの開催に注力した。主たる研究成果は以下のとおりである。

#### 出版

- ・BABA, Tamon, et al. *Index de 'Abd Allāh ibn Husayn ibn Muḥammad al-'Aydārūs, 'Abd al-Qādir ibn Sāliḥ ibn Šihāb & 'Abd al-Raḥmān al-Saqāf, Fihris al-maḥṭūṭāt al-yamaniyya li-Maktabat al-Aḥqāf bi-Muḥāfazat Ḥaḍramawt, al-Ġumhūriyya al-yamaniyya, Qum, Maktabat Samāḥat Āyat Allāh al-'Uzmā al-Mar'asī al-Nağafī al-Kubrā, al-Ḥizāna al-'Ālamiyya li-al-Maḥṭūṭāt al-Islāmiyya, Tēherān, Markaz al-Waṭā'iq wa-al-Tārīḥ al-Diblūmāsī, Wizārat al-Ḥārīḡiyya li-al-Ġumhūriyya al-Islāmiyya al-Īrāniyya, 2009, 3 vol., vol. 1 (Association Chroniques du manuscrit au Yémen, 2022年6月)の刊行*
- ・望月葵『グローバル課題としての難民再定住：異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える』（ナカニシヤ出版、2023年3月）の刊行
- ・CMEIS Report No. 8を刊行

#### 研究会などの開催

- ・CMEIS Book Launch を計10回オンライン主催
- ・現代中近東コロキアムを計4回オンライン主催
- ・オンライン研究会「現代中東研究コロキアム研究会」を計2回主催（2022年6月）
- ・国際シンポジウム“Syrian Refugees in Their Calamities, Survival, and Future Lives: A Japan Roundtable”「中東・イスラーム研究の新たな挑戦」を主催（2023年1月）

②について、主たる成果は以下のとおりである。

- ・米田優作（大学院生）「現代エジプトにおけるサラフィー主義者の政治観—ダアワ・サラフィーヤの政党設立を手がかりに—」（日本オリエント学会第64回大会）（東京大学、オンライン、口頭発表）（2022年10月）
- ・YONEDA, Yusaku (Ph.D. Candidate), “Islamic “Tradition” and “Authenticity” in Contention: A Discourse Analysis of Salafist Actors in Contemporary Egypt”, 20th Asia Pacific Conference (Ritsumeikan Asia Pacific University, 口頭発表) (December 2022)
- ・SUECHIKA, Kota, Hiroyuki AOYAMA and Yusaku YONEDA (Ph. D. Candidate), “2021 Opinion Poll in Syria: Sampling Method and Descriptive Statistics,” “Relational Studies on Global Crises” (October 2022) の刊行

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2023年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位	
センター長	馬場 多聞	文学部	准教授	
運営委員	末近 浩太	国際関係学部	教授	
	阿良田 麻里子	食マネジメント学部	教授	
	吉川 卓郎	立命館アジア・太平洋大学 アジア・太平洋学部	教授	
	小杉 泰	立命館アジア・日本研究所	教授	
	嶋田 晴行	国際関係学部	教授	
	鳥山 純子	国際関係学部	准教授	
	山下 範久	グローバル教養学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	黒田 彩加	アジア・日本研究機構	准教授	
	ハシヤン アンマール	アジア・日本研究機構	准教授	
	小澤 一郎	文学部	准教授	
	フセイン ラシット	グローバル教養学部	准教授	
	アシャデオノ フィトリオ	政策科学部	助教	
	池端 露子	衣笠総合研究機構	准教授	
	ダヌシュマン イドリス	国際関係学部	准教授	
	竹田 敏之	アジア・日本研究機構	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	望月 葵	アジア・日本研究機構 専門研究員	
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	米田 優作	国際関係研究科博士後期課程	学振特別研究員 (DC)
	学振特別研究員 (PD・RPD)	桐原 翠	衣笠総合研究機構	学振特別研究員 (PD)
		足立 真理	衣笠総合研究機構	学振特別研究員 (PD)
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)				
客員協力研究員				
その他の学外者				

(他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員	計 20名	(うち学内の若手研究者	計 4名)

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	BABA, Tamon	<i>Index de 'Abd Allāh ibn Husayn ibn Muḥammad al-'Aydārūs, 'Abd al-Qādir ibn Šālḥ ibn Šihāb &amp; 'Abd al-Raḥmān al-Saqqāf, Fihris al-maḥṭūtāt al-yamaniyya li-Maktabat al-Aḥqāf bi-Muḥāfazat Ḥaḍramawt, al-Ġumhūriyya al-yamaniyya, Qum, Maktabat Samāhat Āyat Allāh al-'Uzmā al-Mar'asī al-Naǧafī al-Kubrā, al-Ḥizāna al-'Ālamiyya li-al-Maḥṭūtāt al-Islāmiyya, Ṭéhéran, Markaz al-Watā'iq wa-al-Tārīḥ al-Diblūmāsī, Wizārat al-Ḥārīǧiyya li-al-Ġumhūriyya al-Islāmiyya al-Īrāniyya, 2009, 3 vol., vol. 1</i>	共著	2022年6月	Association Chroniques du manuscrit au Yémen	Sami Lagati, Anne Regourd	pp.1-583
2	鳥山純子	「母という家庭の中心ーあるエジプト人母の姿から」『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ6 うつりゆく家族』	単著	2023年3月	明石書店	竹村和朗 編 長澤栄治 監修	pp. 84-101
3	鳥山純子	「コラム1 妻の居ぬ間にもう一家族」『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ6 うつりゆく家族』	単著	2023年3月	明石書店	竹村和朗 編 長澤栄治 監修	pp. 36-39
4	ダヌシュマン・イドリス	「神への愛のために被造物を助ける：スーフィズムにおける社会扶助の理念と実践」『今日のスーフィズム：神秘主義の諸相を知る』(Sias Lecture 9)	単著	2023年3月	上智大学イスラーム地域研究所	赤堀雅幸編	pp. 33-48
5	足立真理	「喜捨：インドネシアにおけるザカートの変容(第15章)」『東南アジアのイスラームを知るための61章』	単著	2023年3月	明石書店	久志本裕子・野中葉編	pp. 97-102

6	望月葵	『グローバル課題としての難民再定住：異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える』	単著	2023年3月	ナカニシヤ出版		pp. 1-252
7	山下範久	「14-19世紀における「パワーポリティクス」：ポストモンゴルから自由主義的国際秩序までの帝国間関係の変容」『構造化される世界 14～19世紀（岩波講座世界歴史第11巻）』	単著	2022年11月	岩波書店	小川幸司 責任編集	pp. 63-96
8	阿良田麻里子	「宗教と食ビジネス」『食の展望—持続可能な食をめざして』	単著	2023年3月	味の素の文化センター	南直人編著	pp.257-286
9	阿良田麻里子	「食とハラール」、「断食」『東南アジアのイスラームを知るための64章』	単著	2023年3月	明石書店	野中葉編著	pp.92-96 pp.112-116
10	ASHARDIONO, Fitrio	“Climate Change, Agricultural Resilience, and Rural Society: Adaptation in the Era of Rapid Change”	単著	2022年6月	Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University		pp.1-74

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	馬場多聞	13世紀のラスール朝の宮廷料理	単著	2023年1月	史林, 196巻1号		pp. 44-72	有
2	馬場多聞	中世のイエメンと酒あるいは発酵飲料	単著	2023年2月	立命館文学, 681		pp. 75-90	無
3	馬場多聞	大坪玲子・谷憲一編『嗜好品から見える社会』（春風社、2022年）	単著	2023年2月	立命館史学, 42		pp. 59-65	有
4	末近浩太	「アラブの春」後のリビアにおける国家再建と民主化：2019年実施の世論調査の結果から」	共著	2022年	『日本中東学会年報』第38-I号	山尾大（共著者）	pp. 1-30	有
5	末近浩太	「変化の兆しを見せるレバノンの政治と経済：イスラエルとの海洋境界合意を中心に」	単著	2022年11月	『中東動向分析』vol. 21, No. 7		pp. 1-10	無
6	末近浩太	「レバノン第20期国民議会選挙と「二大政党体制」の動揺」	単著	2022年9月	『中東研究』第545号 Vol. 2, 2022/23		pp. 86-100.	無
7	末近浩太	「イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐるイラン国民の認識：2021年サーベイ実験の結果から」	共著	2023年3月	『アジア経済』第64巻, 第1号	千坂知世・山尾大（共著者）	pp. 2-26	有
8	TORIYAMA, Junko	“BOOK REVIEW : Exploring Queer Studies 1: Identity, Community,	単著	Nov. 2022	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University (4)		pp.206-208	有

		and Space KIKUCHI Natsuno, HORIE Yuri, IINO Yuriko (eds.), Kyoto: Koyo Shobo, 2019**						
9	嶋田晴行	「カナダのアフガ ニスタン移民・ 「難民」の現実ー カナダにおける聞 き取り調査結果か ら」	単著	2022年6 月	『立命館国際研究』第35 巻1号		pp.35-51	無
10	黒田彩加	研究報告「アラブ 革命以降のイスラ ーム政治思想の新 動向：ハーリド・ アブルファドルに おける『イスラ ーム民主主義』批判 と『シャリーアの 目的論』の連関を 手がかりに」	単著	2022年10 月	『立命館アジア・日本学 術年報』第3号		pp.124-132	無
11	DANISMAN, Idris	Religious Coexistence in Türkiye: Millet System of the Ottomans and "Seventy-two Religious Communities" of Yunus Emre	単著	2023年3 月	Orient, Vol.58		pp. 63-77	有
12	KIKKAWA, Takuro	Japan's Humanitarian Aid to Jordan and the Transformation of Aid Identities and Practices in New Security Challenges.	単著	2022年9 月	Prosperitas		pp.1-12	有
13	ADACHI, Mari	"The Rapid Trajectory of Digital Zakat Payment in Indonesia under the Pandemic: Case of the collaboration between BAZNAS and GoPay"	単著	2022年12 月	3 <sup>rd</sup> Annual Management Business and Economics Conference Proceeding 2021		pp.269-273	有
14	望月葵	「<書評> Mahmud, Basem. 2022. Emotions and Belonging in Forced Migration: Syrian Refugees and Asylum Seekers. Abingdon: Routledge, 210 pp.」	単著	2023年4 月	『イスラーム世界研究』		pp. 211-214	有
15	小澤一郎	「ハイル・ムハン マドについて：マ クラーンにおける 定着アフガン人の 交易活動の一側 面」	単著	2023年2 月	『立命館文学』681		pp. 616-600	無

16	竹田敏之	<書評>「依田純和『アラビア語』『アラビア語別冊：文字編・文法表・語彙集』」	単著	2023年3月	『オリエント』第65巻, 第2号		pp. 167-172	有
17	ASHARDIONO, Fitrio	A review on urban agriculture: technology, socio-economy, and policy	共著	November, 2022	Heliyon, Volume 8, Issue 11	Grace Ning Yuan, Gian Powell B. Marquez, Haoran Deng, Anastasiia Iu, Melisa Fabella, Reginald B. Salonga, Joyce A. Cartagena	e11583	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	馬場多聞	13世紀のラスール朝の宮廷料理	2022年4月	2022年度史学研究会例会（オンライン開催）	
2	馬場多聞	アデン湾を渡るということ	2022年5月	国立民族学博物館共同研究「人類史における移動概念の再構築：「自由」と「不自由」の相克に注目して」2022年度第二回研究会	
3	馬場多聞	[コメント] 嗜好品と歴史学(?)	2022年6月	『嗜好品から見える社会』合評会（現代文化人類学会2022年度第3回定例研究会）（オンライン開催）	
4	末近浩太	「大塚先生から学んだこと」	2022年10月	「近代・イスラームの人類学」、その先へ：大塚和夫先生の目指したもの」シンポジウム（東京都立大学）	
5	末近浩太	「基調講演・歴史的シリア（シャーム）研究の新たな挑戦：ロンドンからの眺望」	2023年1月	公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新たな挑戦：コロナ危機を超えて」立命館大学アジア・日本研究所（オンライン開催）	
6	SUECHIKA, Kota	“Conflict and ‘State-Diffusion’ in Syria: An Analysis of the 2021 Public Opinion Survey”	February, 2023	Contemporary Middle Eastern Political Studies International Meeting, Middle East Technical University, Ankara, TURKEY	
7	末近浩太	「誰がシリアを「変える」のか：紛争、権威主義、そして震災」	2023年3月	緊急シンポジウム「トルコ・シリア地震で何が変わったか：政治研究者が読み解く」現代中東研究コロキウム（オンライン開催）	
8	SUECHIKA, Kota	“Nation/state-building and Democratization of the Post-Arab Spring Libya: An Analysis of the 2019 Survey”	May, 2022	The 24th Mediterranean Studies Association Annual International Congress, Universidade Nova de Lisboa, Lisbon, PORTUGAL	
9	末近浩太	「アラブの春」以降の対イラン脅威認識の変遷を探る：アラブ諸国主要紙の計量テキスト分析から」	2022年10月	日本国際政治学会2022年度研究大会・分科会B-7“Exploring the New Regional Dynamics of the Middle East”（仙台国際センター）	山尾大
10	SUECHIKA, Kota	“How Do Syrians Perceive Roles of the Resurgent Assad Regime in the Post-Conflict Period?: An Analysis of the 2021 Public Opinion Survey”	March, 2023	International Conference “Humanitarian Narratives and Interventions from the Contemporary Middle East,” ISCTE - University Institute of Lisbon, Lisbon, PORTUGAL	YAMAO, Dai
11	TORIYAMA, Junko	“Making Analysis”	May, 2022	NIMAR Ethnographic Research Seminar. NIMAR Rabat, Morocco.	

12	TORIYAMA, Junko	“People Again: Towards a benevolent discussion of knowledge-making”	August, 2022	International Workshop Taste of Knowledge #1 NIMAR Rabat, Morocco	
13	鳥山純子	「知のマーケティング現場としてのフィールドワールド経験からの語りー」	2022年10月	<イスラーム・ジェンダー科研2022年度全体集会>イスラーム・ジェンダー学が目指すものー公正の問題を考える(東京大学、オンライン)	
14	TORIYAMA, Junko	“How can we discuss the taste of knowledge?”	February, 2023	International Workshop Taste of Knowledge #2, NIMAR Rabat, Morocco	
15	嶋田晴行	「平和構築における国連の役割ーUNAMAを例に」	2022年11月	立命館大学国際地域研究所研究会(恒心館KS206教室、オンライン)	
16	黒田彩加	「「シャリーアと国家」をめぐる現代思潮とイスラーム改革:ハーリド・アブルファドルの政治思想の分析から」	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会(オンライン発表)(早稲田大学、オンライン)	
17	黒田彩加	「新しいイスラーム政治哲学の見取り図」	2022年9月	学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略:ポストコロナ時代を見据えて」(立命館大学アジア・日本研究所)(オンライン)	
18	KURODA, Ayaka	“al-Naqd al-‘Arabī li-l-Ḥadātha al-Gharbīya fī al-Fikr al-Miṣrī al-Mu‘āṣir: Ṭarīq al-Biṣhrī wa Ṭarḥ al-Tajaddud al-Ḥadārī Unmūdhajan (現代エジプト思想における西洋近代批判:ターリク・ビシュリーの文明の革新論を例として)”	November, 2022	al-Mu‘tamar al-Dawī al-Awwal bayna al-Yābān wa Indūnīsiyā ḥawla al-Ḥadāra al-Islāmīya wa al-Adab al-‘Arabī, (第1回イスラーム文明とアラブ文学に関する日本・インドネシア国際会議) Ritsumeikan University, (Online) ※アラビア語	
19	KHASHAN, Ammar	“Motivations and Consequences of Trust in Islamic Welfare Transactions: Conceptual Analyses Based on Early Islamic Legal Sources”	June, 2022	Faculty of Economics and Business Sharia Economics of Universitas Airlangga (Academic and Professional Exposure Week), at Airlangga University (Indonesia) (Online) (招待講演)	
20	ハシヤン・アンマール	「イスラーム経済におけるワファール(契約の誠実履行)をめぐる」	2022年9月	学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略:ポストコロナ時代を見据えて」立命館大学アジア・日本研究所(オンライン)	
21	KHASHAN, Ammar	“Islamic Welfare in the Post-Neoliberalist Era: Infaq in the Qur’an, Hadith, and Legal Recourses, and its Transformation in Contemporary Indonesia”	December, 2022	Parallel Session1 “Beyond Capitalism? Critical Debates from Philosophy and Economics”, 20th Asia Pacific Conference, at Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu	
22	KHASHAN, Ammar	“Leveraging Blockchain Technology to Unlock Potential Instruments for Islamic Welfare: Applying FinTech for Revitalizing Waqf”	February, 2023	Fourth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development Beyond the COVID-19 Era in Asia: Young Researchers’ Engagements, at Ritsumeikan University	
23	KHASHAN, Ammar	“The Halal/Haram Dichotomy, Halalization, and De-haramization: Necessary Components for Formulating Waqf, Mutual Trust, and	March, 2023	International Colloquium on Islamic and Halal Economic Studies: Towards a New Horizon in the Post-COVID Era, jointly organized by National University of Malaysia, Kyoto University and	

		Islamic Social Welfare in the Digital Age”		Ritsumeikan University, at Ritsumeikan University	
24	IKEHATA, Fukiko	“Dilemma of Muslim Solidarity and the Syrian Refugee Crisis: The Case of the OIC”	June, 2022	International Symposium Syrian Refugees in Their Calamities, Survival, and Future Lives, Ritsumeikan University	
25	IKEHATA, Fukiko	“What is “Official Islam” in the OIC Member States? Analyses of the Institutional, Political, and Legal Implications”	December, 2022	the 20th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
26	池端蒔子	「急速に変容する現代社会とイスラーム：集団的イジュティハドによる法解釈の展開」	2022年5月	日本中東学会年次大会第38回大会（早稲田大学、オンライン）	
27	池端蒔子	「現代ヨルダン・ハーシム王家の「穏健イスラーム」発信と政治的正統性」	2022年11月	科研：基盤A「非アラブにおける穏健イスラームの研究：インドネシア・パキスタン・トルコの事例から」研究会(上智大学)	
28	池端蒔子	「現代ウラマーの国際的ネットワークと規範形成：国際イスラーム法学アカデミーの事例から」	2023年1月	公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新たな挑戦：コロナ危機を超えて」（オンライン）	
29	ダヌシュマン・イドリス	「『アナトリア的イルファン(Anadolu İrfanı)』とは何か：トルコにおける『共生』の新たなモデルになるのか」	2023年3月	第4回穏健イスラーム研究会（科研A+平和中島）（オンライン）	
30	ダヌシュマン・イドリス	「国境を超える宗教生活と宗教施設：非イスラーム世界におけるモスクの都市空間との統合は可能か」	2022年8月	第1回鹿島学術振興財団「イスラームの宗教施設と都市空間との融合：モスクに集うムスリムたちの日本社会との共生」研究会（オンライン）（京都大学）	
31	KIKKAWA, Takuro	“Japan’s humanitarian aid toward Jordan and the transformation of aid identities and practices in the new security challenges”	2022年5月	OBIC Conference 2022, Budapest Business School, ブダペスト商科大学	
32	KIKKAWA, Takuro	“Digital Authoritarianism and Social Movements on the Web: The Case in the Hashemite Kingdom of Jordan under the COVID-19 Lockdown”	2022年5月	Mediterranean Studies Association (MSA) Annual Conference, Universidade NOVA de Lisboa	
33	吉川卓郎	「強権化するヨルダンの君主制権威主義と圧迫される市民・社会運動・イスラーム主義」	2022年9月	科研費基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」研究会（オンライン）	
34	足立真理	「現代インドネシアにおけるザカートの再構築：イスラームにおける制度化、デジタル化、新自由主義による影響をめぐって」	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会（早稲田大学、オンライン）	
35	桐原翠	「現代イスラーム世界におけるハラール：イスラーム法学派による食事規定とハラール食品の取り扱い、Halal in the Modern Islamic World: Dietary Rules from the Perspective of Islamic Schools of Law and their	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会（早稲田大学、オンライン）	



		Application in Halal Food Industry」			
36	桐原翠	「イスラーム経済研究の新動向：マレーシア発ハラール経済イニシアチブ」	2022年9月	学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略：ポストコロナ時代を見据えて」（オンライン開催）	
37	桐原翠	「イスラームにおける信仰・戒律・ビジネスの融合：ハラール食品産業とイスラーム法の結びつきから」	2022年12月	おやさと研究所 第354回研究報告会 研究発表（天理大学付属おやさと研究所）	
38	桐原翠	「グローバルな戒律を持ち運ぶムスリム移民・難民たち：生存基盤としてのハラール食品を考える」	2022年12月	「<ラウンドテーブル>宗教・食・移民——トランスローカルな宗教実践の学際的考察」（南山宗教文化研究所）	
39	KIRIHARA, Midori	Developments and Challenges of Halal Certification in Non-Muslim Countries: The Case of Japan”	February, 2023	Fourth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development Beyond the COVID-19 Era in Asia: Young Researchers’ Engagements, Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University	
40	KIRIHARA, Midori	“Socio-Legal Instruments to Safeguard Modern Halal Economies: An Institutional Perspective Based on Halal Standardization in Malaysia”	March, 2023	International Colloquium on Islamic and Halal Economic Studies: Towards a New Horizon in the Post-COVID Era, Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University	
41	KIRIHARA, Midori	“Multicultural Coexistence of Food Development from Southeast Asia: Beginning and Expansion of the Halal Food Industry”	March, 2022	3rd International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development at ZOOM (Japan)	
42	KIRIHARA, Midori	“Implications of Success in the Halal Industry: Malaysia’s Global and Domestic Initiatives”	December, 2022	Asia Pacific Conference at Ritsumeikan Asia Pacific University (Japan)	
43	望月葵	「欧州の移民・難民コミュニティの存立基盤とシリア難民問題」	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会、（早稲田大学、オンライン）	
44	MOCHIZUKI, Aoi	“Regaining Their Sense of Belonging and Livelihood: Syrian Refugees in Jordan and West Europe”	June, 2022	International Symposium: “Syrian Refugees in Their Calamities, Survival, and Future Lives: A Japan Roundtable,” Ritsumeikan University	
45	MOCHIZUKI, Aoi	“Politics of Naming and Definitions Reflection on Cases of Syrian, Afghan, and Ukrainian Refugees in Japan”	November, 2022	The 49 <sup>th</sup> AJI Frontier Seminar, online, Ritsumeikan University	
46	MOCHIZUKI, Aoi	“Importance and Challenges of Refugee Resettlement as an Inevitable Solution: Reflections based on the Syrian Refugee Crisis in the Middle East and West Europe”	December, 2022	Asia Pacific Conference 2022, Ritsumeikan Asia Pacific University	
47	MOCHIZUKI, Aoi	“Challenges of Receiving Refugees and Displaced Persons in Japan: A	February, 2023	AJI International Workshop From the Frontier of Asian Diaspora Studies: Perspectives on Migrants,	

		Focus on Syrian, Afghan and Ukrainian Refugees”		Refugees, and Returnee Diasporas, Ritsumeikan University,	
48	山下範久	「人新世と第三の近代」	2023年2月	比較文明学会関西支部第55回研究例会、京都大学	
49	OZAWA, Ichiro	“Cities and settlements in Iranian Makran at the turn of the 19th and 20th centuries”	February, 2023	Qajar Round Table: Urban Landscapes in Qajar Iran, Kyoto: Kyoto University	
50	OZAWA, Ichiro	“Intersecting land and maritime trade networks in Southwest Asia: the Afghan arms trade in cooperation with various trade networks at the turn of the 19th and 20th centuries”	January 2023	Discovering the Indian Ocean World: Gyres, Indian Ocean and beyond Program, Suita, Osaka: National Museum of Ethnology	
51	OZAWA, Ichiro	“Respect for “Territorial Authorities”: Logics of the British Anti-Arms Traffic Activities in the Persian Gulf”	June 2022	8th IMHA International Congress of Maritime History: Old and New Uses of the Oceans, Porto: University of Porto	
52	小澤一郎	「19・20世紀転換期のマクラーンにおける交易・交流：バルーチ人社会とアフガン人の武器交易活動」	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会（早稲田大学、オンライン）	
53	TAKEDA, Toshiyuki	“The Orthography of the Qur’an in Islamic Literary Tradition: Between the West (al-Maghrib) and the East (al-Mashriq) in the Arab World”	December 2022	20th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
54	TAKEDA, Toshiyuki	“Tarikh ‘ilm al-‘Arud al-‘Arabi wa Tatawwuru-hu: Qadiya Bahr al-Mutadarak fi Mizan al-Buhur al-Khaliliya” (アラブ詩における韻律学の史的展開：ハリール学派におけるムタダーラク調の位置付け)	2022年11月	“al-Mu’tamar al-Dawli al-Awwal bayna al-Yaban wa Indunisiya hawla al-Hadara al-Islamiya wa al-Adab al-‘Arabi” (第1回「イスラーム文明とアラブ文学に関するインドネシア・日本国際シンポジウム」), 立命館大学アジア・日本研究所 (アラビア語によるオンライン開催)	
55	竹田敏之	「クルアーン読誦学とアラビア語正書法の展開：ラスム学の5原理とその主要著作」	2022年10月	CISMOR リサーチフェロー研究会啓典解釈研究セミナー「クルアーンの理解と解釈：古典期ウラマーの実践を中心に」同志社大学 (オンライン)	
56	竹田敏之	「アジア文学のオーラリティ：ポストコロナとDX時代を踏まえた論点整理」	2022年9月	学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略：ポストコロナ時代を見据えて」、立命館大学アジア・日本研究所 (オンライン開催)	
57	竹田敏之	「現代アラブ詩における韻律学の伝統と革新」	2022年5月	日本中東学会第38回年次大会（早稲田大学、オンライン）	
58	阿良田麻里子	「滋賀県における湖魚利用の活性化にむけて——インドネシアと日本の淡水魚食文化の比較から」	2022年11月	亜州食学論壇/Asian Food Studies Conference 第12回研究大会 (立命館大学食総合研究センター、オンライン)	
59	ASHARDIONO, Fitrio	“Exploring the Potentials of Coffee GIs in Indonesia: Adaptation Tool for the Rural Community”	December 2022	20th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
60	ASHARDIONO, Fitrio	“Coffee and Climate Change”	March, 2023	Special Guest Lecture, Department of International Relations, Faculty	

				of Social and Political Science, University of Jember, Indonesia	
61	米田優作	「現代エジプトの『政教関係』を再考する：アレキサンドリアのダアワ・サラフィーヤの事例から」	2022年10月	第4回現代中東研究コロキウム（オンライン）	
62	米田優作	「現代エジプトにおけるサラフィー主義者の政治観—ダアワ・サラフィーヤの政党設立を手がかりに—」	2022年10月	日本オリエント学会第64回大会（東京大学、オンライン）	
63	YONEDA, Yusaku	“New perspective of Salafism (Salafist) Studies in Egypt: From the Field Research in Alexandria and Cairo”	November, 2022	International Workshop, KG010, Ritsumeikan University	
64	YONEDA, Yusaku	“Islamic “Tradition” and “Authenticity” in Contention: A Discourse Analysis of Salafist Actors in Contemporary Egypt”	December 2022	20th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
65	米田優作	「地域研究としてのサラフィー主義研究に向けて：2022年度エジプト現地調査を踏まえた今後の展望」	2022年12月	現代中東政治研究ワークショップ（龍谷大学深草校舎・紫英館2F第3共同研究室）	
66	米田優作	「政治参加後のヌール党および母体サラフィー主義組織の思想変容：2022年のエジプト現地調査から」	2023年1月	公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新たな挑戦：コロナ危機を超えて」（オンライン）	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	Reading “Legal precarity” in migrant lives: “Legal precarity, migrant mothering and the space of hesitation in Paris”（鳥山先生）	JSPS カイロ研究センター	2022年12月	12名	“Global Migration and Reconfiguration of Social Relations among Middle Eastern Muslims in the Age of the Post-Arab Spring”（19KK0023）
2	「湖魚食振興を考えるワークショップ」（阿良田先生）	BKCエポック立命21食堂	2023年3月	15名	
3	国際シンポジウム“Syrian Refugees in Their Calamities, Survival, and Future Lives: A Japan Roundtable”	立命館大学大阪いばらきキャンパス、オンライン	2022年6月	60名	立命館大学アジア・日本研究所
4	CMEIS Book Launch（第9回）講演者：川村藍 “Grafting an Islamic Sapling onto the Tree of Legal Dispute Resolution: Alternative Approaches to Civil Disputes in Islamic Finance in the Gulf and Southeast Asia”	オンライン	2022年4月	10名	立命館大学アジア・日本研究所
5	CMEIS Book Launch（第10回）講演者：鳥山純子 『「私らしさ」の民族誌：現代エジプトの女性、格差、欲望』	オンライン	2022年5月	18名	立命館大学アジア・日本研究所
6	CMEIS Book Launch（第11回）講演者：渡邊駿 『現代アラブ君主制の支配ネットワークと資源分配：非産油国ヨルダンの模索』	オンライン	2022年5月	14名	立命館大学アジア・日本研究所
7	CMEIS Book Launch（第12回）講演者：ハシャン・アンマール 『イスラーム経済の原像：ムハンマド時代の法規定形成から現代の革新まで』	オンライン	2022年6月	16名	立命館大学アジア・日本研究所

8	CMEIS Book Launch (第13回) 講演者: ウェンディ・パールマン『シリア: 震える橋を渡って』	オンライン	2022年6月	20名	立命館大学アジア・日本研究所
9	CMEIS Book Launch (第14回) 講演者: 桐原翠『現代イスラーム世界の食事規定とハラール産業の国際化: マレーシアの発想と牽引力』	オンライン	2022年6月	35名	立命館大学アジア・日本研究所
10	CMEIS Book Launch (第15回) 講演者: 小笠原弘幸『ハレム-女官と宦官たちの世界-』	オンライン	2022年9月	25名	立命館大学アジア・日本研究所
11	CMEIS Book Launch (第16回) 講演者: 橋爪烈、中島愛里奈『イスラーム医学』	オンライン	2022年10月	16名	立命館大学アジア・日本研究所
12	CMEIS Book Launch (第17回) 講演者: 今城尚彦、谷憲一、西川慧、大坪玲子『嗜好品から見える社会』	オンライン	2022年11月	19名	
13	CMEIS Book Launch (第18回) 講演者: 三浦徹、太田啓子『イスラームの都市社会 中世の社会ネットワーク』	オンライン	2022年12月	19名	
14	第3回現代中東研究コロキウム 報告者: 今井宏平、上野祥	オンライン	2022年6月	30名	現代中東政治研究ネットワーク
15	第4回現代中東研究コロキウム 報告者: 溝淵正季、米田優作	オンライン	2022年10月	25名	現代中東政治研究ネットワーク
16	第5回現代中東研究コロキウム 報告者: 山尾大、木戸皓平	オンライン	2023年2月	28名	現代中東政治研究ネットワーク
17	緊急シンポジウム 現代中東研究コロキウム「トルコ・シリア地震で何が変わったか」 報告者: 岩坂将充、高岡豊、末近浩太	オンライン	2023年3月	72名	現代中東政治研究ネットワーク
18	BOOK CLUB「著者は語る」Vol.1『現代シリアの国家変容とイスラーム』登壇者: 末近浩太	オンライン	2022年7月	66名	立命館大学アジア・日本研究所
19	公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新たな挑戦」	オンライン	2023年1月	20名	立命館大学アジア・日本研究所、国際地域研究所、立命館先進研究アカデミー他

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	馬場多聞	「イエメンの読書案内」	立命館大学アジア・日本研究所『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol. 1, 2023年 ( <a href="https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/yemen/reading/">https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/yemen/reading/</a> )	
2	馬場多聞	「イエメンの都市」	立命館大学アジア・日本研究所《アジア・日本研究 web マガジン》アジア・マップ Vol.1 (2023) ( <a href="https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/yemen/essay02/">https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/yemen/essay02/</a> )	
3	SUECHIKA, Kota, Hiroyuki AOYAMA and Yusaku YONEDA	“2021 Opinion Poll in Syria: Sampling Method and Descriptive Statistics,” “Relational Studies on Global Crises”	Online Paper Series, No. 15, Research Report No. 8, October 31, 2022, 65 pp ( <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/online_papers/onlinepaper20221031.pdf">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/online_papers/onlinepaper20221031.pdf</a> )	
4	青山弘之・末近浩太・浜中信吾・高岡豊・山尾大・錦田愛子・今井宏平・溝淵正季	「中東世論調査 (シリア 2022)」単純集計報告」	CMEPS-J Report No. 68, 2023年1月23日 ( <a href="https://cmeps-j.net/ja/cmeps-j-reports/cmeps-j-report-68">https://cmeps-j.net/ja/cmeps-j-reports/cmeps-j-report-68</a> )	
5	末近浩太	「<総説>シリアという国」	立命館大学アジア・日本研究所『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol. 1, 2023年1月 ( <a href="https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/syria/">https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/area_map/syria/</a> )	
6	AOYAMA, Hiroyuki, Kota SUECHIKA, Shingo HAMANAKA, Yutaka TAKAOKA, Dai YAMA, Aiko	“Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Syria 2022)”	CMEPS-J Series, No. 69, January 23, 2023 ( <a href="https://cmeps-j.net/cmeps-j-reports/cmeps-j-report-69">https://cmeps-j.net/cmeps-j-reports/cmeps-j-report-69</a> )	

	NISHIKIDA, Kohei IMAI and Masaki MIZOBUCHI			
7	末近浩太	「『現代シリアの国家変容とイスラーム』再訪：地域研究の拡張・発展に向けて」	「著者は語る」AJI Book Club Vol. 1 (2022年7月6日 オンライン開催)	
8	末近浩太	「混迷の続く中東情勢を展望する」	第435回「時事通信ロンドン・トップセミナー」(2023年1月27日 Chartered Accountants' Hall, London, UK)	
9	末近浩太	「中東を脱神話化する：異文化理解と情勢分析のあいだで」	立命館西園寺塾2021年度梅原文明コース(2022年3月4日 立命館東京キャンパス)	
10	鳥山純子	「映画から読み解くイスラームとジェンダー」	イスラーム映画祭 TALK SESSION①(2022年4月30日 神戸元町映画館)	
11	鳥山純子	「映画 Sofia 解説」	上智大学映画上映会(2022年12月13日 上智大学、オンライン)	
12	鳥山純子	「私らしさの民族誌紹介」	イスラーム・ジェンダー学科研集ごもり研究会(2022年4月 オンライン)	
13	鳥山純子	「『私らしさ』の民族誌—現代エジプトの格差、欲望、女性」	Book Launch Seminar (2022年5月 CMEIS/AIJ 立命館大学、オンライン)	
14	鳥山純子	「エジプトで学ばされた生き延びるための処方法：ジェンダー、社会階級、グローバルネットワークに着目した社会考察」	中東☆イスラーム教育セミナー(2022年9月 東京外国語大学AA研)	
15	TORIYAMA, Junko	“Observing Gender in Films: Sofia”	NIMAR Seminar: Case Studies on Moroccan Culture and Society No.9. (November 2022, NIMAR Rabat, Morocco)	
16	鳥山純子	「犠牲祭(エジプト)」	『イスラーム文化事典』イスラーム文化事典編集委員会編、丸善出版 pp.42-43 (2023年1月)	
17	鳥山純子	「地域ごとの食文化(エジプト)」	『イスラーム文化事典』イスラーム文化事典編集委員会編、丸善出版 pp.138-139 (2023年1月)	
18	鳥山純子	「ツーリズム、リゾート、レジャー施設(エジプト)」	『イスラーム文化事典』イスラーム文化事典編集委員会編、丸善出版 pp.444-445 (2023年1月)	
19	鳥山純子	「アラブ世界の女性たち4 イスラーム教の女性抑圧をめぐる問答から—モロッコ・ラバトで出会った、いくつかの嬉しい「驚き」」	『f Visions』 No.5 アジア女性資料センター、pp. 56-57 (2022年7月)	
20	鳥山純子	「『マリアムと犬ども』—一家父長制ホラーが照らすシステムからの脱却 Column #2」	『イスラーム映画祭8 Archive』 pp.11-12 (2023年2月)	
21	鳥山純子	「『ソフィアの願い』—「未婚の母」問題で繋がる社会 Column #10」	『イスラーム映画祭8 Archive』 pp. 39-40 (2023年2月)	
22	嶋田晴行	「アフガニスタン・2021年8月15日の前・後」	立命館大学アカデミックセンター 2023年2月24日(オンライン)	
23	嶋田晴行	「今考える避難民・難民・移民」	公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター(HIECC) 国際理解講演会(札幌ガーデンパレス)	
24	嶋田晴行	「アジア共同体の可能性—アフガニスタ」	山口大学経済学部 講演会 2022年12月27日(山口大学経済学部)	

		ン-2021年8月15日の前と後」		
25	嶋田晴行	“Afghanistan before and after August 15,2021”	立命館大学大学院国際関係研究科 学術講演会 2022年12月8日(立命館大学アジア太平洋大学)	
26	嶋田晴行	「今こそ平和を問うアフガニスタンのこれまでの道のりと今後の展望」	国連フォーラム関西支部「平和構築」勉強会 2022年12月3日(オンライン)	
27	嶋田晴行	パネリスト	立命館大学アジア・日本研究所 「第4回 緩衝国家から見た国際関係-アフガニスタン・ウクライナ・南北コア」 2022年7月22日(オンライン)	
28	嶋田晴行	「復権したタリバンアフガン政権崩壊1年」	インタビュー記事 毎日新聞 2022年8月12日 朝刊 国際面	
29	嶋田晴行	「「避難民」は難民とは何が違う? 日本の難民政策の基本を解説」	shiRUto 2022年6月9日 <a href="https://shiruto.jp/global/4115/">https://shiruto.jp/global/4115/</a>	
30	池端路子	「イスラーム法学者がつくる国際規範」	アラブ調査室 オンライン講座 2022年10月21日	
31	ダヌシュマン・イドリス	「中東におけるトルコの役割:トルコの近代化、『トルコ・イスラーム総合論』と『トルコ・モデル』の観点から」	アラブ調査室 オンライン講座、2022年9月23日	
32	吉川卓郎	「カタールW杯2022 人権問題に抗議相次ぐ」	『毎日新聞』2022年11月17日、7面	
33	吉川卓郎	「カタールW杯2022 誘致オイルマネー 光と影」	『毎日新聞』2022年11月22日、7面	
34	吉川卓郎	「カタール研究者が語るカタール」	『Number』1063号、2022年12月1日、pp.81	
35	ADACHI, Mari	“Islamic Social Finance: The Rapid Trajectory of Digital Zakat Payment in Indonesia”	IESWC 2020 (Islamic Economics Winter Course 2022), (Online, September 19, 2022)	
36	桐原翠	「アジア・イスラーム世界の研究者として生きる—大学時代の学びをふりかえって」	『東京女子大学 アジアフォーラム』ウェブサイト掲載エッセイ	
37	竹田敏之	「イスラーム化とアラビア語・アラビア文字の拡大」	『イスラーム文化事典』イスラーム文化事典編集委員会編、丸善出版 pp.100-101 (2023年1月)	
38	竹田敏之	「『倍増し』の喜び、謎解きの双数形」ことば紀行 [51] アラビア語 (コラム)	『白水社の本棚』白水社、2022年7月、pp.32	
39	竹田敏之	「アラビア語」	『世界の公用語事典』庄司博史編、丸善出版、2022年1月、pp.118-123	
40	ASHARDIONO, Fitrio	Comparative Politics on Japanese Environmental Policy - 1	Visiting Lecturer Program for Independent Campus Competition Program, Department of International Relations, Faculty of Social and Political Science, University of Jember, Indonesia, (October 25, 2022)	
41	ASHARDIONO, Fitrio	Comparative Politics on Japanese	Visiting Lecturer Program for Independent Campus Competition Program, Department of International Relations, Faculty of Social and Political Science, University of Jember, Indonesia, (November 1, 2022)	

		Environmental Policy - 2		
42	ASHARDIONO, Fitrio	Comparative Politics on Japanese Environmental Policy - 3	Visiting Lecturer Program for Independent Campus Competition Program, Department of International Relations, Faculty of Social and Political Science, University of Jember, Indonesia, (November 8, 2022)	
43	小澤一郎	「ウィズ・コロナ時代の海外調査ーイギリスの場合」	CMEIS Report No.8 (2023年1月)	
44	CMEIS	第44回立命館史学会大会 共催	立命館大学衣笠キャンパス啓明館 KM201号教室 (2022年12月)	
45	CMEIS	ワークショップ「近世の海洋空間をめぐる異文化接触と信頼ー海賊への対応を事例としてー」 共催	立命館大学衣笠キャンパス啓明館 KM302教室 (2023年2月)	

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	RASIT, Huseyin	Sociology Department, Yale University	Marvin B. Sussman Dissertation Prize	Contending Futures in the 21st-Century Middle East: Ideology and the Emergent Political Formations of ISIS, Kurdistan-Iraq and Kurdistan-Syria	2023年3月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	馬場多聞	「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」	学術変革領域研究(A)	2020年11月	2025年3月	分担
2	末近浩太	「危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から」	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2022年10月	2025年3月	代表
3	末近浩太	「ハイブリッド戦争時代における新たな安全保障学の構築ー中東ユーラシア地域の事例から」	基盤研究(A)	2022年4月	2025年3月	分担
4	末近浩太	「政治体制としての代議制民主主義の現状と可能性ー東地中海地域の事例から」	基盤研究(A)	2022年4月	2027年3月	分担
5	末近浩太	「空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネ이션再考：アジア、米との比較」	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	分担
6	末近浩太	「中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究」	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	分担
7	末近浩太	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
8	末近浩太	「関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学術ネットワークの確立と活性化」	新学術領域研究（研究領域提案型）	2016年10月	2023年3月	分担
9	末近浩太	「現代中東における政治と宗教ー「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」	基盤研究(B)（繰越）	2019年4月	2022年3月	分担
10	末近浩太	「紛争地域における「記憶」と「安全保障化」のメカニズムー「東地中海地域」を事例に」	基盤研究(B)（繰越）	2019年4月	2023年3月	分担
11	末近浩太	「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」	基盤研究(B)（繰越）	2019年4月	2022年3月	代表
12	末近浩太	「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補充・篡奪に関する研究」	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担

13	末近浩太	「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」	新学術領域研究 計画研究（繰越）	2016年10月	2021年3月	代表
14	鳥山純子	「2011年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究」	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表
15	鳥山純子	「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」	分担者・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2019年10月	2024年3月	分担
16	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究」	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担
17	鳥山純子	「感情労働の地域・階級間比較にみる「近代家族」、フェミニズム思想の越境性とその限界」	基盤研究(B)（繰越）	2018年4月	2021年3月	分担
18	小澤一郎	「20世紀初頭の西・南アジア境界域におけるアフガン人武器取引ネットワークの研究」	若手研究（繰越）	2019年4月	2023年3月	代表
19	池端路子	「中東の国家間対立と「公的イスラーム」の役割：国家の正統性と法学者ネットワーク」	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
20	アシャデオノ フィトリオ	「気候変動への対応策と農業現場での政策主体インドネシア・コーヒー農協のGI取組み」	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
21	ハシアン アンマール	「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築」	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
22	ハシアン アンマール	「イスラーム法のワファー（契約の誠実履行）の概念と適用：社会・経済の信頼関係から」	学術変革領域研究(A)	2021年4月	2022年3月	代表
23	吉川卓郎	「危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から」	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2022年10月	2025年3月	分担
24	吉川卓郎	ヨルダン政治と部族社会：南部の政治・社会・経済に関する現地調査を中心に	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)）	2019年10月	2023年3月	代表
25	吉川卓郎	「現代中東における政治と宗教—「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」	基盤研究(B)（繰越）	2019年4月	2022年3月	分担
26	小杉泰	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	代表
27	黒田彩加	「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築」	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	分担
28	黒田彩加	「民主化失敗以降のアラブ政治変動と穏健派イスラームの国際的思想構築」	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表
29	嶋田晴行	「米国の対アフガニスタン政策の失敗の要因とアフガニスタンの今後」	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
30	山下範久	「グローバル関係論の時間論的基礎付けのための比較理論研究」	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	分担
31	足立真理	「グッド・ガバナンス論再考のためのインドネシア地域研究：ビッグデータ分析の試み」	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2019年10月	2024年3月	分担
32	足立真理	「東南アジアのザカート制度化の差異をめぐる実証研究」	研究活動スタート支援	2019年8月	2023年3月	代表
33	足立真理	「現代インドネシアの宗教間対話と政教関係」	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
34	足立真理	「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築」	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	分担
35	足立真理	「イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究」	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	分担
36	ダスシュマン イドリス	「非アラブにおける穏健イスラームの研究—インドネシア・パキスタン・トルコの事例から」	基盤研究(A)	2022年4月	2027年3月	分担



37	望月葵	「ポスト・コロナ期の多文化共生の課題と難民・避難民の再定住：離散シリア難民を事例に」	研究活動スタート支援	2022年8月	2023年3月	代表
38	竹田敏之	「現代アラビア語の標準化と地域差の生成—湾岸と西方アラブ地域の比較・相関研究」	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	阿良田麻里子	「外国の食文化を使用した淡水魚食振興」	2022年度日本フードサービス協会研究助成	2022年6月	2023年1月	研究代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本